

令和7年度 宮崎県博物館協議会議事概要

日時：令和7年11月5日（水）13：30～16：45

会場：西都原考古博物館ホール

1 出席委員

八ツ橋寛子会長、柳澤一男副会長、大重美貴委員、田原理恵委員、堀田由美子委員、森永英津子委員、野村美智子委員、横山幸子委員、出口智久委員、那賀教史委員、川越祐子委員、木佐貫ひとみ委員 12名

2 事務局職員

(1) 文化財課：田中礼子課長

(2) 総合博物館：井上大輔館長、黒木秀一副館長、野辺俊博総務課長、酒井隆治学芸課長

(3) 西都原考古博物館：長友由美子館長、東憲章副館長、池田隆之主幹、和田理啓主幹、松本茂副主幹

3 会議次第

(1) 開会

(2) 開会挨拶 西都原考古博物館長

(3) 委員・職員紹介

(4) 会長挨拶

(5) 議事 (①～③すべて承認、④は説明事項)

①令和6年度総合博物館の事業報告及び評価について

②令和6年度西都原考古博物館の事業報告及び評価について

③令和7年度総合博物館及び西都原考古博物館の事業計画について

④第4期総合博物館中期運営ビジョン、第3期西都原考古博物館中期運営ビジョンについて

⑤その他

(6) 閉会挨拶 総合博物館長

(7) 閉会

(8) 国際交流展観覧「千年の至芸」

4 主な意見・質疑等

(1) 令和6年度 総合博物館の事業報告及び評価について

(委員) 最近、「クマ」が話題になっている中、九州で絶滅の理由について、学芸職員がメディアを通して専門的見解を発している点は好感を持った。

(事務局) 今後も様々なメディアを通じて情報発信を行い、博物館の活動を知ってもらえるよう努めていきたい。

(2) 令和6年度 西都原考古博物館の事業報告及び評価について

(委員) 関係NPO法人と協力してSNS等での情報発信に努めてほしい。

(3) 令和7年度 総合博物館及び西都原考古博物館の事業計画について

(委員) 総合博物館の展示更新や特別展は大変な労力を伴うものであり評価しているが特別展の入場料が高い。子供無料化や料金設定の見直しを検討できないか。

(事務局) 物価高騰や採算性の面で苦慮しているが、来館者アンケートの意見等を精査し、今後の価格設定の参考にしたい。

(委員) 考古博物館のボランティア解説は素晴らしい取組であるが、高齢化が懸念され、募集活動など担い手維持のためアイデアが必要。

(事務局) ボランティアの活動に興味を持った若年層の参加も一部見られる。参加者にメリットのある魅力づくりを進める。

(委員) 子供達にとって、恐竜や刀剣などの展示で本物に触れる体験は大切である。また、年度末の研究報告会は非常に面白く、今後も続けてほしい。

(4) 第4期総合博物館中期運営ビジョン、第3期西都原考古博物館中期運営ビジョンについて

意見等なし

(5) その他

(委員) SNSによる情報発信は重要。特定の職員に負担が集中しないよう配慮が必要。

(事務局) SNSは展示会や講座の担当者が中心となって対応している。特定の職員に過度な負担とならないよう組織全体で情報発信に努める。

(委員) 県北・県南など遠方からの来館者が少なくもったいない。多方面から足を運んでもらいたい。

(事務局) 公共交通機関の廃止等でアクセスが厳しくなっている面もある。インターネットでの情報発信と実物に触れる「本物の体験」の両輪で来館促進に努めたい。

(委員) 博物館で発達段階の異なる子供を受け入れる際、どう対応しているのか。

(事務局) 来館者との対話を通じてニーズを把握し、ものに触れるための体験型展示を重視している。

（委 員）放課後デイサービスや老人クラブ等の福祉施設との連携を強化し、来館を促すべき。

（事務局）福祉部局等を通じて施設への情報提供に努めていく。

（委 員）博物館巡りを県全体で観光ルート化できないか。

（事務局）空港や駅等の拠点施設での広報・周知等を検討したい。

（委 員）職員の業務がマルチ化し、負担が増えている。健康管理とやりがいを持つ職場環境を重視してほしい。

（事務局）DX化の推進等により働きやすい職場環境づくりに努める。

（委 員）地域と連携した魅力ある博物館づくり、情報発信に注力してほしい。

（事務局）他県の成功事例等も参考にして、地域の柱となるような施設を目指す。